日本文学研究コース

講義コード	授　業　科　目	単位	授 業 科 目 の 内 容
40JLT001**	アーカイブズ学入門	2	アーカイブズ保存利用機関における施設見学等を交え、アーカイブズの本質と構造を歴史学・情報学および記録管理学などの学際的な観点から理解し、収集・移管から保存・利用まで、アーカイブズを永続的に守り活かすための科学的な管理・運用システムを体系的に学ぶ。 【到達目標】多様な学問分野の研究高度化のため、その基礎となるアーカイブズ学を体系的に修得する。特に、資料の保存と活用方法についての視野の拡大や、自身の研究を地域でどのように活用していくかについて専門職であるアーキビストの倫理綱領などを踏まえて考える契機とする。 （オムニバス方式／全15回） （藤實久美子/5回）アーカイブズ総論、アーカイブズ資源論、 （西村慎太郎、太田尚宏、ゲストスピーカー/10回）（共同）アーカイブズ管理論、アーカイブズ管理の実際
40JLT002**	総合書物論	2	書物には、その本が著述されたそもそもの目的やその本が属するジャンルを越えた、さまざまな人間の営みがたたみ込まれている。この授業では、日本に伝えられてきた夥しい書物を対象とし、それらを活用して人文学をより豊かなものにしていくための、文献学・書誌学・言語学・歴史学・図像学など多分野の協業を通した学際的なアプローチを探究する。実施に当たっては、必要に応じて外部講師を招くなどする。 【到達目標】日本に伝えられた書物について、書誌、歴史、表記、図像などさまざまな視点から分析することにより、日本の書物が内包する多様な問題を総合的に捉えることができる。 （オムニバス方式／全15回） （木越俊介、入口敦志、神作研一/6回） はじめての古典籍、古典籍の装訂・書型について、刊記について、デジタルツールから迫る古典籍、展示観覧（特設展示　於：国文研展示室）、貸本文化について （高田智和/5回） 書物と文字、書物と語彙・文体、言語情報の電子的記述、言語資料の電子化、コーパスを用いた言語分析 （神戸航介/4回） 『延喜式』とは、『延喜式』の写本・版本、『延喜式』と諸国の物産、『延喜式』にみえる水産加工食品
40JLT003**	英語表現基礎演習	2	自身の研究内容等について英語圏の学界ではどのように表現されているかを学び、実際に報告原稿を作成し、プレゼンテーション実践についても学ぶ。なお、これらを行う前提として、一般的な英語力を復活させ、また、専門的な英語表現の知識を増やすための英文講読も併せて実施する。実施に当たっては、必要に応じてネイティブスピーカーの外部講師を招くなどする。 【到達目標】 ・長年、英語にほとんど触れること無く過ごしてきた大学院生の英語感覚を復活させる ・自分自身の研究内容等に関する英語表現を身につける ・英文を作成する際の支援ツール等の活用方法を身につける
40JLT004**	高等表現能力演習	1	本講義では、自身の研究内容と成果について、正確かつ効果的な発信力を身に着ける。研究発表のユニバーサルデザイン等を学ぶとともに、諸学会における口頭発表等に関する指導や、基盤機関において実施される研究集会等への参加など、実践的な演習を行う。 【到達目標】 ・簡潔かつ視覚的に分かりやすい構成により、発表資料やポスター等を作成し、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。 ・先行研究や資料画像等の引用について、権利関係に十分に配慮できるようになる。

日本文学研究コース

講義コード	授　業　科　目	単位	授 業 科 目 の 内 容
40JLT005**	資源研究演習	1	本授業では、日本の古典籍の特質把握とその歴史的変遷に関する知識習得等を含む、日本古典籍および明治期文献についての総合的理解と研究手法の習得を目指す。具体的には、表紙や料紙といった書物を構成する要素についての理解と分析手法の習得、写本や刊本の成立と伝来に関わる奥書・識語や刊記・奥付に記される情報の理解と分析手法の習得、蔵書印や出版文化の理解といった書物の流通に関わる知識の習得など、書誌学、文献学、蔵書史等にわたる複合的な視点から、また具体的事例に即して、日本古典籍および明治期文献を対象とする研究の在り方について学ぶ。
40JLT006**	研究基礎論1	2	本講義では、日本文学研究コースの教員がオムニバス形式で授業をおこない、文献・画像・記録などの資史料を用いた研究の多様な展開を提示する。 【到達目標】 ・文献、画像、記録資史料に関する研究の現況及び課題について理解し、説明することができる。 ・本授業で学んだことがらを活かして、自分の考察対象とする資史料について、文献学または記録史料研究のなかに位置づけ、説明することができる。
40JLT007**	研究基礎論2	2	本講義では、日本文学研究コースの教員がオムニバス形式で授業をおこない、文献・画像・記録などの資史料を用いた研究の多様な展開を提示する。 【到達目標】 ・文献、画像、記録資史料に関する研究の現況及び課題について理解し、説明することができる。 ・本授業で学んだことがらを活かして、自分の考察対象とする資史料について、文献学または記録史料研究のなかに位置づけ、説明することができる。
40JLT008**	書写文化論1	2	主として和歌に関わる諸資料とその伝来の諸形態についての検討と考察を通して、日本の書写文化について考える。具体的には、和歌の詠作に関わる個別の資料の検討からはじめ、実物資料を観察し、その様式の特徴や史的変遷、また伝来形態等のさまざまな側面から考察を加え、その文化史的意義を明らかにする（講義及び演習）。 【到達目標】古典籍原本の取り扱いの技術の習得を踏まえ、写本を中心とした日本の書写文化について理解し、それを説明することができる。
40JLT009**	出版文化論1	2	日本の古典分野、とりわけ近世後期における資料を対象に、板本の取り扱い方、読み方のリテラシー、さらにはその成立過程や流布、伝来といった側面をもとりあげ、各資料の調査・分析・解釈の方法について講義する。（講義） 【到達目標】資料に表れた文化的特質を多様な観点から総合的に研究できるようになる。
40JLT010**	出版文化論2	2	写本と同様、出版された書物にも大きさや装訂など、様式がある。写本に較べ、手工業製品としての出版物は、技術的経済的理由により、強固に様式化される面も見られる。本授業では、出版物のモノとしての側面に光をあて、様式上の問題を、具体例に則して考察してゆく。 【到達目標】出版物を様式的に把握することができる。

日本文学研究コース

講義コード	授　業　科　目	単位	授 業 科 目 の 内 容
40JLT011**	資源集積論1	2	この授業では、日本近世の幕府・諸藩・村方などで作成・授受・蓄積された歴史アーカイブズを用い、そこにおける多様な情報を整理・活用するために必要な調査・分析の方法を学ぶ。授業は、教材としたアーカイブズに関する基本的事項の解説ならびにその解読・情報整理・分析に関わる演習からなる。 【到達目標】資料の中から必要な情報を抽出し、整理・分析できる。
40JLT012**	作品形成論1	2	本講では、中近世日本に隆盛し、挿絵を伴って享受された室町物語（御伽草子）を対象とする。国文学研究資料館蔵の奈良絵本・絵巻のほか、海外を含めた諸機関に所蔵される作品を取り上げて、研究手法や現在の研究水準について把握するとともに、具体的な作品に即した読解を行う。説話や芸能、絵画資料、民間伝承、地誌などをあわせみることで、多角的な視点から本文と挿絵の双方を読み解き、そこに反映された学芸の諸相と、室町物語の制作享受圏が醸成された文化的・思想的背景を考察する（講義および演習）。 【到達目標】・作品の内包する文化的特質について、多様な観点から考察できるようになる。 ・奈良絵本・絵巻調査の基礎を身に着ける。
40JLT013**	作品形成論2	2	日本文学史上もっとも流布した歌書である『百人一首』について学び、また個々の和歌を読解することによって、日本文学史における和歌の意義を考える。百人一首歌の読解においては、それぞれの歌人の家集との関わりを重視する。 【到達目標】『百人一首』の作品としての意義を理解し、注釈の方法を把握する。
40JLT014**	作品享受論1	2	江戸時代における古典学はどのように展開し、どんな達成を遂げたのか。そしてそれは、近世文学の思潮や文学史とどのように関わり合ったのか。時代に即して江戸を考える時、彼ら江戸の人びとの〈知〉の基盤整備の実態をつぶさにおさえることは、極めて重要な問題だ。本授業では、江戸時代に成立した注釈書の精読を通して、公家の流れを汲む〈学〉の系譜の種々相を明らかにしたい。 （講義及び演習） 【到達目標】江戸に即して、注釈的態度で、自力で作品を批判的に読解できる。
40JLT015**	作品享受論2	2	日本近代に書かれた小説を、「引用」と「文体」を軸として読み進める。 【到達目標】 近代日本において「文学」を書くことにいかなる制約や可能性があったのかを知ることが授業のねらいである。

日本文学研究コース

講義コード	授　業　科　目	単位	授 業 科 目 の 内 容
40JLT016**	文学思想論1	2	本授業では近世初期から数多く刊行された禅僧による仮名法語を中心に臨済宗と日本社会の関わりを検討する。「仮名法語」の定義は今ひとつ定まっていなくて、フィクションを取り入れた文学作品（仮名草子など）や諸宗派の教義を紹介する文献を意味する場合もあるが、ここでは特定の禅僧の教えを日本語で書かれたテキストのみを対象にする。 近世では仏教の教義が複数の媒体を通して社会に発信されて、禅僧の仮名法語はその「横」の文脈に位置づけることは大事である。一方、禅宗特有の「縦」の歴史を見る必要がある。 「仮名法語」は一種の入門書であるため、本授業では仏教用語の基本的な調べ方を身につけながら禅宗を中心に仏教の教義と日本文化との関わりを考える。 【到達目標】簡単な仏典（仮名書き）を自力で解読。仏教と禅宗の基本教義を習得。中近世の仏教と日本社会の基本的な関係を歴史的や思想的に理解する。
40JLT017**	文学芸術論1	2	日本中世期に成立した和歌に関わる書物、歌学書の精読を行う。歌学書に記される事柄は、古歌の解説、作歌の方法、会席作法、歌人の逸話等、多岐にわたるが、これらは当然ながら、同時代に通底する知識・常識を前提に記述されたものである。これを正確に理解するには、単なるテキストの内容読解のみでは不十分で、そこに記されない社会通念や著者の思想にまで目を向ける必要がある。本講義では特に室町期の歌学書を題材とし、適宜関連資料をもって内容の肉付けを行いながら、同時代の視点に立ったテキストの復元的読解を試みる。これを通して室町期における和歌文学のありようや、これを取り巻く歌人社会の実態につき理解を深める。 【到達目標】 ・室町期の歌学書を成立当時の価値基準に則して読み解くことが出来る。 ・研究を行う立場から文学資料に向き合い、広い視野から多様な問題意識をもつことが出来る。
40JLT018**	文学芸術論2	2	本授業では、江戸・明治期に多く刊行された考証随筆などを採り上げ、文学に与えた影響やその実証方法について検討していく。先例に倣うことを重視し、記録し解釈を施していった成果を江戸期には刊行されていくが、それを更に追記・批評していくことまでがなされていく。その関連性や批判文献を採り上げていくことにより、当時における文化圏での話題を確認しうるものである。また小説などにも作品内考証として採り上げられていくが、荒唐無稽になりがちな作品を真実らしく見せることに繋がっていることを具体的に考察していく。 【到達目標】 ・本授業で学んだ事を活かして、自分の考察対象とする文献について、その背景にある文化的素養のもとで理解し、説明することができる。その上で、作品のもつ趣向等の特徴を確認することができる。 ・日本文学における考証・好古の果たす役割を理解することができる。
40JLT019**	文学社会論1	2	本講義では、書籍（出版物・写本）と本屋、社会変化の有機的な関係を把握する。具体的には、近世前期から幕末維新期の書籍に関わる一次史料それぞれの来歴を確認し、史料批判をおこないながら解読し、文学環境の復元とその変化について考察してゆく。 【到達目標】 ・書籍はメディアとして力をもったことから、権力はそのときどきでどのように距離をはかったか。書籍は作者・板元の情熱と購買者・読者の需要や反響との循環のなかでいかにうみだされたのか。これらについて説明することができる。 ・本授業で学んだことがらを活かして、自分の考察対象とする書籍史料について、社会・文化構造のもとで理解し、説明することができる。

日本文学研究コース

講義コード	授　業　科　目	単位	授 業 科 目 の 内 容
40JLT020**	文学情報論1	2	詳細は2026年度シラバスを参照
40JLT021**	書物情報論1	2	近代日本におけるさまざまな出版物について、本文の内容のみならず挿画や装丁、刊行形態や書物としての物質性といった観点を含めて捉え、その文学史的な意味や価値を考察していく。（講義および演習）
40JLT022**	記録情報論1	2	詳細は2026年度シラバスを参照
40JLT023**	記録情報論2	2	第一に、近世日本における記録情報の蓄積の一例として、公家アーカイブズを事例として取り上げる。公家の記録情報がいかに蓄積されていったか、特にこれまで研究が乏しい近世公家の文書管理に関する記録情報を軸に講義と実践を行なう。 第二に、民間所在のアーカイブズの保全と活用について講義と実践を行う。 【到達目標】近世公家のアーカイブズ及び民間所在のアーカイブズの保全と活用に関する研究手法を理解し、実践できる。